

2026 SUMMER

YIC NEWS



公益財団法人 四日市市文化まちづくり財団
四日市国際交流センター

ISSUE 429

四日市でプラント工事・土木工事を手がける有限会社トーアエンジニアリング。深刻な人材不足をきっかけに外国人材の受け入れを始めた同社は、今では“家族のように支え合う職場づくり”で注目されています。インドネシア人材との関わりを通して見えてきた、地域企業の新しい国際交流の形を伺いました。

「自社に来た人材は、家族と同じ」

有限会社トーアエンジニアリング 取締役会長 山本 清吉



受け入れのきっかけは 「人が集まらない」現実

ハローワークで募集をかけても応募がない状況が続く中、同社は技能実習生としてインドネシア人材の受け入れを決断しました。採用にあたっては現地へ赴き、直接面接を実施。現在は6名がプラント工事や土木作業に従事しています。

彼らは現地の学校や来日後の研修で日本語をしっかりと学んでおり、コミュニケーションは非常にスムーズです。宗教上の礼拝や食事についても事前に話し合い、互いに尊重し合う関係を築いています。

人を大切に経営が、 働きやすい現場をつくる

私が大切にしてるのは、「日本人も外国人も、一人の人間として向き合う」という姿勢です。食事に誘ったり、悩みを聞いたり、好きな果物を差し入れたりしています。こうした日々の交流が信頼関係を育て、日本人社員にもその姿勢が自然と広がっています。

今では日本人社員が彼らを弟や子どものように気かけ、休日と一緒に過ごすほどの関係に育っています。言葉の壁があっても、温かい人間関係が現場の雰囲気を支えています。

ています。

また、働きやすい現場づくりのため、性格に合った日本人指導員とのマッチングを行い、トラブルが起きる前にチームを調整します。こうした細やかな配慮が、顧客からの信頼にもつながっています。

「お腹いっぱい、美味しいものを」から始まった 環境づくり

弊社では、全室個室の寮や食堂を完備し、関連事業として弁当事業も展開しています。これは私自身が現場で感じた「不味い弁当」「長期滞在の宿泊先の不満」を解消したいという思いから始まった取り組みです。

「社員にはお腹いっぱい、美味しいものを食べてほしい。快適な環境で過ごしてほしい。」その思いが形になった福利厚生は、外国人材にとっても大きな安心につながっています。

2027年「育成就労制度」 への移行を前に

2027年には技能実習制度が廃止され、育成就労制度へ移行します。転職の自由が認められる新制度ですが、私の考えは揺らぎません。

「もし転職されるなら、それは

私たちの接し方が足りなかったということ。『この会社になりたい』と思える環境をつくるのが経営者の責任です。」
国籍に関係なく、真面目に働く社員と共に歩んでいく姿勢は、制度が変わっても変わることはありません。

● 地域と国際交流をつなぐ企業

外国人材の受け入れは、単なる労働力確保ではなく、地域の中で新しい“つながり”をつくる取り組みでもあります。

YIC日本語サークルでは、こうした企業の取り組みを今後も紹介し、地域と外国人材をつなぐ架け橋となる活動を続けていきます。



国際交流を支えるひと Vol.01

四日市には、日本語を学びながら生活している外国人の方がたくさんいます。YIC日本語サークルでは、そんな皆さんの学びを楽しくサポートしてくれる日本語ボランティアを募集しています。このページでは、実際に活動しているボランティアの方々の声を紹介します。



日本語サークル
ボランティア詳細

YIC日本語サークルボランティア 01

INTERVIEW

—— 細谷 智宏 さん

**地域に貢献したい。
その思いが最初の一步でした**

四日市に戻ってきた時、ふと「**地域のために何かできないだろうか**」と考えるようになりました。以前、市内で働いていた頃から、国際交流や多文化共生には関心がありましたが、実際に行動に移す機会はありませんでした。そんな時、日本語学習支援の活動を知り、「**これなら自分にもできるかもしれない**」と思ったのが、ボランティアを始めるきっかけでした。

とはいえ、最初から自信があったわけではありません。日本語教育を専門的に学んだ経験もなく、「**本当に役に立てるのだろうか**」「**うまく教えられるのだろうか**」という不安は大きかったです。それでも、「**地域のために何かしたい**」という気持ちが、背中を押してくれました。

**学習者と向き合う時間が、
自分の気づきにもなる**

現在は、中国とタイ出身のお二人を担当しています。お二人とも日本語能力試験（N3・N4）の合格を目指しており、文法や語彙の学習に加えて、日常会話の練習も一緒に進めています。

活動の中で特にうれしいのは、学習者から「**日本に来てよかった**」「**生活が楽しい**」と言ってもらえた瞬間です。日本語を学ぶことが、彼らの生活を支える力になっていると実感できるからです。

また、学習者との会話を通じて、**自分自身が地域の魅力に気づかされることもあります**。タイ出身の方から「四日市の山の景色や夕焼けがとてもきれいですね」と言われた時、当たり前だと思っていた風景が、実はとても豊かな魅力を持っていることに気づきました。外国人の視点を通して、**四日市の良さを再発見できる。これも、この活動の大きな喜びです**。

**日本語を教える難しさと、
生活を支える存在としての役割**

日本語をわかりやすく伝えることは、**想像以上に難しい**と感じています。「ルール」という言葉ひとつを説明するにも、「規則」「きまり」「決ま



っていること」など、相手に伝わる表現を探しながら話します。それでも伝わりにくい時は、翻訳ソフトを使うこともあります。

また、学習以外にも、マイナンバーカードの申請やごみ出しのルールなど、生活に関する相談を受けることも多く、**地域で気軽に話せる相手がいることの大切さを実感しています**。

**特別な資格よりも、
“話してみたい”という気持ちを**

外国人の皆さんは、日本語が難しいと言われながらも、仕事や生活のために本当に一生懸命学んでいます。その姿を見ると、「**少しでも力になりたい**」と自然に思えます。

私自身、最初は不安でしたが、始めてみると学びや気づきがたくさんありました。特別な資格がなくても、「**話してみたい**」「**役に立ちたい**」という気持ちがあれば大丈夫。日本語を教えるというより、**人と人がつながる活動だ**と感じています。

—— 加藤 マサ子 さん

外国人の方と交流してみたい。 その思いから始まった20年

日本語学習ボランティアを始めたのは、“**外国人の方と交流してみたい**”というシンプルな思いからでした。国際交流に関心があり、「日本で暮らす外国人の方と知り合う機会があればいいな」と思っていたのです。気がつけば、もう20年近く活動を続けています。

とはいえ、最初から自信があったわけではありません。**「本当に教えられるのだろうか」「相手に伝わるだろうか」という不安**は大きく、少しでも力になればと大学の科目履修生として日本語教師課程を学びました。ただ、今振り返ると、いちばん大切なのは資格よりも**“相手と向き合いたいという気持ち”**だったように思います。

学習者一人ひとりに合わせた、 日本語支援のスタイル

これまで、ベトナム、アメリカ、イギリスなど、さまざまな国の方と学習を続けてきました。活動の中で特に大切にしているのは、**最初の面談です**。「何を目標にしているのか」「どんな場面で日本語を使いたいのか」を丁寧に聞き、**その人に合った学び方を一緒に考えます**。

仕事で必要なのか、日常会話を覚えたいのか、



日本語能力試験に挑戦したいのか。それによって学習の進め方は大きく変わります。また、「話す」「聞く」「読む」「書く」のどこが苦手なのかを把握することも重要です。こうした準備が、**学習者にとって無理のない学び**につながっていきます。

努力が実を結ぶ瞬間が、 何よりの喜び

活動をしていて一番うれしい瞬間は、学習者から**「先生、会社の面接に合格しました」**と報告を受けた時です。外国から来て、日本語を一生懸命勉強し、自分の力で面接に挑み、結果をつかむ。その姿を見ると、**自分のことのように胸が熱くなります**。

また、普段の会話の中で、学習したフレーズを自然に使えるようになっていく姿を見ると、**「続けてきてよかった」と心から思います**。

続けてもらう難しさと、 学ぶ楽しさをつくる工夫

日本語学習支援で最も難しいのは、“**継続してもらうこと**”だと思います。約束していても来られない方もいますし、センターに着いたタイミングで「今日は休みます」と連絡が来ることもあります。

そんな時は一瞬がっかりしますが、**「もっと工夫できることがあるのではないか」と考えるきっかけにもなります**。だからこそ、学習の時間には**“日本語って面白い”と感じてもらえる工夫**を意識しています。日常の話題を取り入れたり、日本語特有の表現を一緒に笑いながら学んだり、**少しでも前向きな気持ちで続けてもらえるよう心がけています**。

一歩踏み出すことで広がる、 日本語支援の世界

外国人の皆さんは、日本語が難しいと言われながらも、仕事や生活のために本当に一生懸命学んでいます。その姿を見ると、**「少しでも力になりたい」と自然に思えます**。

私自身、最初は不安でしたが、始めてみると学びや気づきがたくさんありました。特別な資格がなくても、**「伝えたい」「役に立ちたい」という気持ちがあれば大丈夫**。日本語を教えるというより、**お互いに学び合う活動**だと感じています。

もし迷っている方がいたら、ぜひ一歩踏み出してみてください。その一歩が、**誰かの生活を支える力になり、自分自身の世界も広がってくれます**。

—— 大島 たか子 さん

日本語ボランティアとの出会いは、 ひと声の誘いから

日本語ボランティアを始めたのは、四日市国際交流センターの外国語講座（英会話）を受講していた時のことです。同じ受講生の中に、日本語を外国人の方に教えている方がいて、その方のお話を聞いたのがきっかけでした。

実際に活動を始める時、**不安はほとんどありませんでした**。それよりも、外国の方と知り合い、**その国の文化や考え方に触れられることに魅力を感じていました**。

新しい世界に出会えることが、私にとって大きな楽しみだったのだと思います。

学習者に寄り添う、 日本語支援の工夫

これまで本当に多くの学習者の方と出会ってきました。現在は主に日本語能力試験（JLPT）の学習支援をしています。ただ問題を解くだけでは**ありません**。その時々**の出来事を会話に取り入れながら進めています**。分からない言葉が出てきた時には、**身近な出来事に置き換えたりして、学習者が「なるほど」と納得できるように工夫しています**。

日本語を覚えるだけでなく、**日常の中で自然に使えるようになってほしい**という思いがあります。

文化の違いに触れることが、 日本語ボランティアの魅力

活動を続ける中で、文化の違いに驚くこともあります。活動を始めた頃は、**約束の時間どおりに来ない方がいることに戸惑いました**。

また、出産祝いの習慣ひとつをとっても、日本では出産後にお祝いをしますが、国によっては出産前にお祝いをすることもあります。プレゼントも事前に希望を伝える文化があるなど、**日本との違いを知る機会がたくさんあります**。

しかし、**その違いこそが日本語ボランティアの面白さでもあります**。学習者の皆さんと交流しながら、それぞれの文化や価値観を知ることができるのです。私は日本語を教えるだけでなく、「日

本語って面白い」「日本の文化って興味深い」と感じてもらえるように、学習の中に楽しさを取り入れることを大切にしています。

心を動かされた、 学習者との忘れられない出会い

印象に残っているのは、**日本の歴史が大好きな学習者との出会い**です。一緒に日本史の本を読みながら学習を進めました。外国の方が日本について深く知りたいと思ってくださることが嬉しく、**そのお手伝いができることに大きなやりがいを感じました**。

また、日本語サークルの発表会で、インドネシア出身の学習者の皆さんが母国の歌を披露してくれたときの、**彼らの生き生きした表情が忘れられません**。母国から遠く離れた日本、そして四日市に来てくれたので、できるだけ多くの楽しい時間を過ごしてほしいと願いました。



難しく考えずに始められる、 日本語ボランティア

日本語ボランティアに興味がある方には、「**難しく考えなくて大丈夫です**」とお伝えしたいです。特別な知識や経験がなくても、**相手と話してみたい、日本のことを伝えたいという気持ちがあれば十分です**。

活動を通じて学ぶことも多く、**自分自身の世界も広がります**。外国人の方のためだけでなく、**自分にとっても新しい発見がある活動です**。ぜひ一歩踏み出してみてください。きっと素敵な出会いが待っています。

Topic 01

四日市市×ロングビーチ市 2026 TRIO



TRIOとは

TRIO（トリオ）は、四日市市と姉妹都市であるアメリカ・ロングビーチ市との国際交流プログラムです。

ロングビーチの若者が毎年四日市を訪れ、学校訪問・市民交流・文化体験などを通してお互いのまちを知り、つながりを深めることを目的としています。

2026TRIO 来日スケジュール

2026年は7月22日～8月7日の約2週間、ロングビーチから教師1名と学生2名が四日市に滞在します。

滞在中は、

- ・四日市の文化を知る体験
- ・市内高校での学校生活体験
- ・市民との交流
- ・企業見学

など多彩なプログラムに参加します。

Coffee Break「TRIO」も開催！

滞在中には、TRIOメンバーが現地の高校生活・文化・最新情報を英語で紹介するイベントも予定しています。

四日市にしながら、ロングビーチの今を知ることができるプログラムです。

高校生通訳ボランティアも活躍

TRIOの交流を支えるのが、市内の高校生通訳ボランティアです。彼らは、3回の研修を受けて、TRIOメンバーの活動をサポートします。

若い世代が国際交流の現場に立つ、四日市ならではの取り組みです。



Matsumoto Miran (左)
Mack Karen (中)
Inui Amira (右)

「四日市市国際交流基金」へのご寄付のお願い

「四日市市国際交流基金」は、四日市市の国際性と市民の皆様の国際感覚を高めることを目的とし、姉妹都市・米国ロングビーチ市や友好都市・中国天津市との青少年の交流事業などに活用しています。基金の趣旨をご理解いただき、皆様のご協力をお願いします。



【問い合わせ】四日市市秘書国際課 | ☎ 059-354-8097

Topic 02

2026 Summer YIC Schedule

7.26

10:00 - 11:30

Coffee Breake「TRIO」

TRIOの3人がロングビーチでの高校生活や文化、現地の今について英語で紹介し、参加者と交流します。

無料・定員40名（先着順）

7.31-8.1

9:00 - 12:30
※両日程とも

グローバル language ウィーク

四日市市内の中高生が2日間で英語・スペイン語・ベトナム語の3言語・6講座を体験します。

受講料12,000円・定員15名（先着順）



8.21

10:00 - 12:00

「多文化共生」を考えるキャリアデザイン講座

四日市市内の中学生が先輩の体験談や企業見学を通して、将来の働き方やキャリアについて考える講座です。

無料・定員名（先着順）

8.23

11:00 - 5:00

絵本専門士による多言語読み聞かせ

絵本専門士と多言語の読み聞かせを子どもから大人まで楽しめます。

無料・定員15名（先着順）



8.30

10:00 - 11:30

国際理解講座「ベトナム」

三重県国際交流員であるホアン マイさんに、出身国であるベトナムについて日本語で紹介をしていただく。

無料・定員40名（先着順）

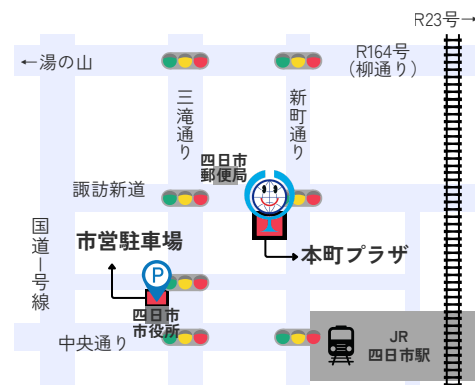
- ・QRコードが付いているイベントは、QRからお申込みいただけます。
(※申込開始前はアクセスできない場合があります)
- ・QRコードがないイベントは、メールまたはお電話でYICまでご連絡ください。
- ・イベントの詳細につきましては、ホームページまたはYICまでお問い合わせください。

Topic 03

about YIC Infomation

四日市国際交流センター Yokkaichi International Center

〒510-0093 四日市市本町9-8 本町プラザ6階
TEL : 059-353-9955 / FAX : 059-355-5931 /
E-mail : yic@yokkaichi-shinko.com
開館日：火曜日～日曜日（9：00～17：00）
休館日：月曜日・祝日・年末年始



YIC Instagram



yokkaichiinter
nationalcenter

YICホームページ



<https://yokkaichi-shinko.com/yic/>